

航空システム研究

小型無人機を実用化

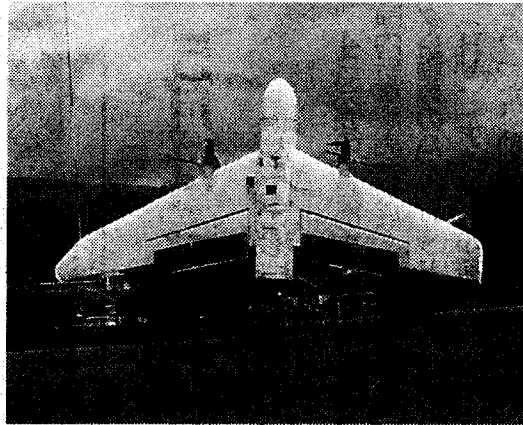
16年度中の商品化めざす

航空宇宙関連の設計コンサルタント、航空システム研究(本社名古屋市緑区池上台、炭田潤一郎社長、電話052・891・5536)は、中部経済産業局の戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)として開発を進めていた無人飛行システムが完成、小型無人機を実用化した。今後、市場調査を行いながら、需要に応じたプログラムの作成や改良を進め、2016年度中の商品化をめざす。



炭田潤一郎社長

同社は、12年からサポイン事業として3年間で約1億円の支援を受けながら、



企業や大学と連携して無人飛行システムの開発を行っていた。「中小企業として、航空機産業の一翼を担いたい」(炭田社長)との思いから、運用が比較的容易な小型無人機を実用化した。実用化したのは、ヘリコ

プターと飛行機の特徴を兼ね備えた「テールシッタ―」方式の小型無人機。ヘリコプターの直の離着陸が行うことができないため、滑走路などの広い場所を必要

(渡部雄平)

としない。飛行時は、飛行機と同じように、水平飛行を行うため、広い範囲を素

早く飛び回ることができ

る。動力は、取り扱いが容易な電動モーターを採用。横幅は約1.6mで、全長は約0.5m、重さは約3kg。積載重量は500gまでで、カメラなどを搭載できる。稼働可能時間は約20分間で、時速は約80km。上空からの地上観測や航空写真、災害時などの空撮や状況把握などの用途を想定している。

小型無人機はリモコン方式で動かすだけでなく、自律システムを搭載してお

り、飛行経路をプログラミングすることでコンピュータで航路を制御する。今後、市場調査を行う中でデータを集め、用途やニーズに合わせた飛行方法などのプログラムの作成を進めていく。飛行時間や積載重量などの改良も進め、商品化をめざす。

炭田社長は「地震や火山噴火などの災害時に役立ててもらいたい。今後想定される無人飛行機の法規制にも対応できる、信頼性の高い飛行システムを提案したい」と話している。

名古屋

4面

小型無人機を実用化

航空システム研究